

ジュネーブ軍縮会議公式本会議のハイレベル・セグメント  
鷲尾副大臣ステートメント（ビデオ・メッセージ）（仮訳）  
（2021年2月22日 於：ジュネーブ）

議長、御列席の皆様、

軍縮会議（CD）の議長を務められるメロ・モウラン・ブラジル軍縮会議代表部大使閣下に対し、謝意を表するとともに、我が国からの支援と協力を改めてお伝えします。

議長、

CDは全ての核保有国を含む重要なステークホルダーが参加する唯一の核軍縮交渉機関であり、将来の成果の普遍性を確保する上で、包摂性が重要です。CDでは交渉が長年停滞しておりますが、これまでの議論を踏まえ、成熟した議題に係る実質的な議論を優先すべきとの観点から、特に核兵器用核分裂性物質生産禁止条約（FMCT）の早期交渉開始の重要性を強調します。また、包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期発効も重要です。日本は、CDにおける実質的議論の実施とマンダートの早期実現に向けて、6議長国を引き続き支援し、十分に貢献していく所存です。また、宇宙の持続的・安定的な利用に対するリスクの増大に対処すべく、宇宙に関する適切な議論を期待します。

議長、

唯一の戦争被爆国として核兵器の使用による悲惨な人道的結末を知る我が国は、核兵器の廃絶に向けた国際社会の取組を主導する責務があります。現在、核兵器のない世界の実現に向けたアプローチには、大きな違いがみられます。このような中、現実の安全保障上の脅威と人道的結末の双方の観点を考慮しつつ、各国が共に取り組むことのできる共通の基盤となり得る具体的措置を見出していくことが重要です。

議長、

核兵器不拡散条約（NPT）は核軍縮・不拡散体制の礎石であり、その維持・強化が重要です。全ての締約国がNPT第6条を含む同条約の完全かつ着実な履行に責任を負っていることを再確認したいと思います。我が国は、次回NPT運用検討会議において意義ある成果を収めるべく、国連総会核兵器廃絶決議、軍縮・不拡散イニシアティブ（NPDI）やストックホルム・イニシアティブ、さらに、核軍縮の実質的な進展のための1.5トラック会合を含む、立場の異なる国々の共通の基盤となる具体的な提案を示すことを通じて、しっかりと貢献していきます。

議長、

今般の新戦略兵器削減条約（新START）の延長は、次回NPT運用検討会議に向けた議論に資するものであり、日本はこれを歓迎します。米露を超えたより広範な国家、より広範な

兵器システムを含むより幅広い軍備管理枠組みの構築につながることを期待します。

また、不拡散についても、我々は協働する必要があります。この点、北朝鮮の全ての大量破壊兵器及びあらゆる射程の弾道ミサイルの完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な廃棄(CVID)の実現のためには、関連する国連安保理決議の完全な履行が不可欠です。

最後に、新型コロナウイルス感染症の下で従来のような作業方式が取れない中で、ヴァロヴァヤ CD 事務局長及び CD 事務局の議事運営の御尽力に感謝申し上げます。我が国は、引き続き核軍縮の推進に向け、尽力し、CD 加盟国と緊密に協力する所存です。

御清聴ありがとうございました。

(了)